

1. 地域概要

計画名	美瑛町エリアにおける交通渋滞緩和事業計画
対象エリア	美瑛町
実施主体	北海道美瑛町 商工観光交流課
年間観光客入込数	約238万人（令和5年度）
年間延べ宿泊者数	15万泊・人（宿泊率約6%）
主な観光資源	波状丘陵地帯の農村景観 白金青い池 クリスマスツリーの木 セブンスターの木



波状丘陵地帯の農村景観



白金青い池

● 観光ビジョン

美瑛町観光マスタープラン2020

- 観光産業が大きく成長する一方で、近年は私有地への立ち入りや路上駐車、交通渋滞の問題が深刻化
- 「美瑛から変える。観光を変える。」をスローガンに、4つの基本方針を定めた（①地域資源の多様性拡大と持続性の担保②観光の成長マネジメントと質の向上③くらしと観光の融合によるまちづくり④美瑛版 DMO の確立）

● 推進体制（協議の場）

美瑛町オーバーツーリズム対策協議会

- 年2回を目途に開催（R7年度以降も継続開催）
- 各団体/組織から代表者最低1名必須参加の運用で、進捗報告や課題協議を行う

行政機関

美瑛町
商工観光交流課

事業者

一般社団法人 美
瑛町観光協会

住民関係者

特定非営利活動法人
美瑛町写真映像協会

有識者

北海道大学
石黒侑介準教授

びえい白金温泉観
光組合

ブラウマンの空庭。
（畑看板プロジェクト）

美瑛町商工会

美瑛町農業
協同組合

2. 課題

● 主な課題

	主な現状・問題点	影響を受けている主な対象
1. 特定観光スポットの混雑・交通渋滞	<ul style="list-style-type: none">特定のエリアに観光客が集中し、町内で混雑や交通渋滞が発生するエリアとそうでないエリアの差が生じている混雑エリアでは、駐車場に入れない車両の滞留や、観光大型バスの路上駐車が横行し、観光客の満足度低下だけでなく、近隣農家の作業や地域住民の通行に支障をきたしている	観光客・地域住民
2. 観光客のマナー違反	<ul style="list-style-type: none">私有地である農地に無断で立ち入る、道路の真ん中に立って写真を撮るなどの観光客のマナー違反行動により、住民迷惑や自然景観への悪影響が懸念される	地域住民・自然資源

1. 特定観光スポットの混雑・交通渋滞



白金青い池
トイレ待ちの列



白金青い池
駐車場に入れない車両の滞留



セブンスターの木
観光大型バスの路駐



クリスマスツリーの木
狭い道路に観光車両が集中し
地域住民の通行が妨げられる

2. 観光客のマナー違反



路上で写真を撮る観光客



農地への無断立ち入り

3. 背景・要因

● 課題の背景・要因

主な背景・要因

- 1. SNS等を背景とした観光客急増
 - 美瑛町の美しい自然景観が写真家やSNSで取り上げられたことで、近年、国内外からの観光客数が急増
 - そのため、駐車場・トイレ等の受入環境整備が追い付いていない
- 2. 貸切バスやレンタカー移動が主流の観光地
 - 主要な観光地間の距離が遠い一方で、公共交通機関が発達していないため、貸切バスやレンタカーでの来訪者が多い
 - 特に外国人観光客はツアー型の大型貸切バスでの来訪が多く、特定の場所・時間に大勢の観光客が集中しやすい
- 3. 観光エリアと生活エリアの重複
 - 観光地化しているクリスマスツリーの木・セブンスターの木や周辺の農地は私有地であるものの、それを知らない観光客が無断で立ち入ってしまう
 - 観光地周辺の道路は生活道路であり、車両のすれ違いが難しいほど狭く、車両滞留が起きやすい

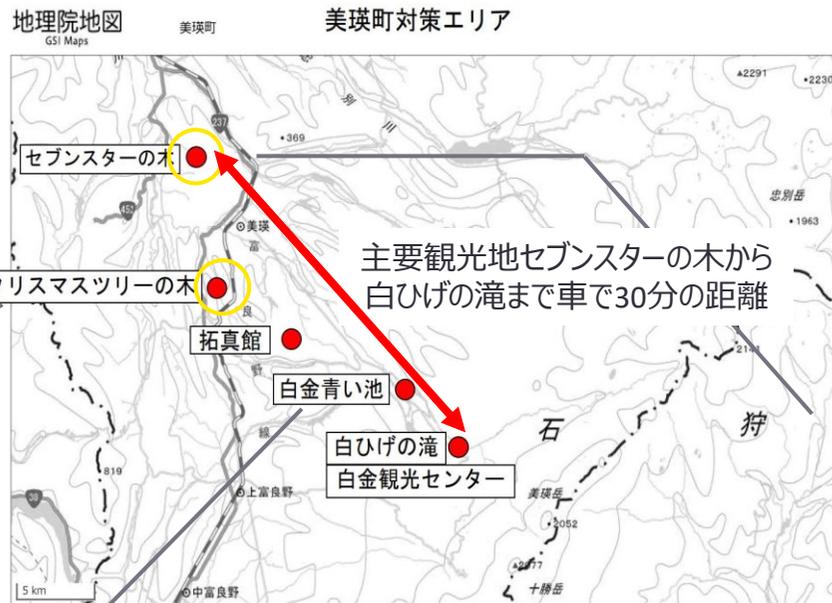
3. 観光地周辺の狭い道路（生活道路）



地域住民が使う狭い生活道路に大量の観光客車両が集まり滞留が発生

○ : 観光エリアと生活エリアが重複

1. SNSによる観光客急増



2. レンタカーや観光バスでの移動

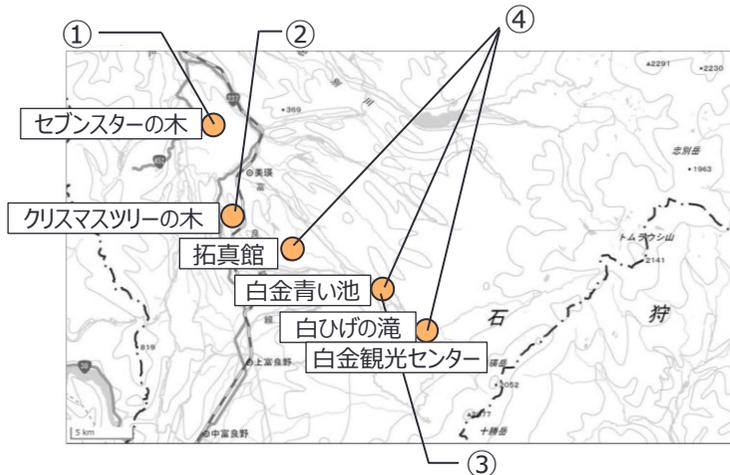


大型バスツアーで来訪する大勢の観光客

4. 対策の概要

- 地域住民・農家の生活エリアと観光エリアが重複しているため、観光客によるマナー違反行動や交通渋滞が、**住民の生活や交通に直接の影響**をもたらしている
- 地域住民からの要望を受け、町を中心に「**美瑛町オーバーツーリズム対策協議会**」を発足
- 地域関係者や有識者との協議を踏まえ、**町内の交通渋滞緩和を目的としたハード整備やソフト面の取組み**（駐車場改修・トイレ増設・交通整理・混雑状況可視化カメラ増設のための調査）、また、**マナー啓発の取組み**（デジタルサイネージの設置）を行うことになった

美瑛町対策エリア



国土地理院ウェブサイトを基に美瑛町作成

受入環境の整備・増強

取組み

背景

内容

取組み

背景

内容

取組み

背景

内容

①セブンスターの木駐車場の改修

- バスの駐車スペースが少なく、同一時間帯にバスが集中することで、6,7台のバスが路上駐車することなどにより、頻繁に道路が混雑。近隣農家の通行に支障をきたしている
- 駐車場を改修し、バス駐車可能台数を増やすことで、特に大型観光バスの集中による路上駐車や交通渋滞の抑制、周辺エリアの混雑緩和を目指す

②クリスマスツリーの木周辺への警備員配置

- 周辺道路はもともと生活道路であり非常に狭く、車両間の行き違いが難しい。加えて、特定の時期・時間帯に観光客の車両が集中することで道路の混雑が発生。近隣農家の作業や地域住民の通行に支障をきたしている
- 冬季の繁忙期において、クリスマスツリーの木周辺に警備員を配置し、交通整理を実施することで、周辺道路の混雑解消を目指す

③白金青い池のトイレ増設（増設工事中は仮トイレを設置）

- 来訪観光客数に対し極端にトイレの数が少なく、ピーク時には100人ほどの行列が発生。駐車場の車両滞留時間が長くなり満車状態が続くため、周辺道路に入場待ちの車両が列をなし、交通渋滞が生じている
- トイレ待ちの滞留解消による駐車場の回転率向上と周辺の交通渋滞緩和を目指す

マナー啓発

取組み

背景

内容

④美瑛町における観光マナーを表示するデジタルサイネージを観光拠点3か所（拓真館、青い池、白金観光センター）に増設

- 観光マナーが十分に浸透しておらず、農地に無断立ち入りをしたり、道路の真ん中で写真撮影をする観光客が増加している
- デジタルサイネージを増設し、観光客のマナー行動遵守を促進

調査・分析

取組み

背景

内容

⑤混雑状況可視化カメラ増設検討のための調査

- 特定のスポットに観光客が集中する一方で、町内に点在する他観光スポットは混雑していない状況。観光客をこうしたエリアに誘導する情報発信を目的とし、増設が必要
- 混雑状況を可視化できるカメラの適切な設置場所を特定するための調査を実施する

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 白金青い池のトイレ不足により、駐車場における車両の滞留時間が長くなり周辺道路に交通渋滞が生じている

取組み

白金青い池のトイレ増設

実施期間：令和6年7月～令和7年2月
実施主体：北海道美瑛町

事業内容

■ トイレ増設

- 白金青い池の来訪者向けトイレを増設する

【背景】

- 白金青い池のトイレは来訪観光客数に対し極端に数が少なく、ピーク時には100人ほどの行列が発生。駐車場における車両の滞留時間が長くなり満車状態が続くため、周辺道路に入場待ちの車両が列をなし、交通渋滞が生じている

【目的】

- トイレを増設することで、観光客数に合った受入環境を整え、滞留解消による駐車場の回転率向上と周辺の交通渋滞緩和を目指す
なお、増設工事中は仮設トイレを設置
- 既存トイレ：男性個室小3大1、多目的1、女性3
- 新設トイレ：男性個室小3大1、多目的1、女性8

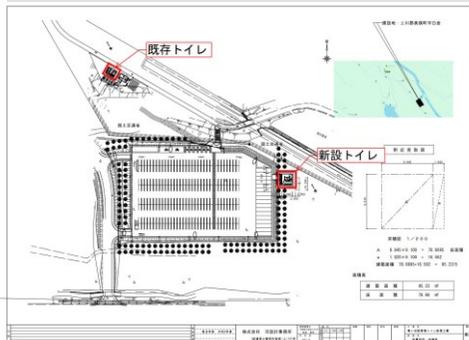
【その他取組み】

- 北海道の協力のもと、従来の青い池駐車場入り口から約1km手前の道道に青い池への左折看板を設置し、青い池に向かう車両を町道へ誘導。その結果ほとんどの車両が左折し道道の渋滞は大幅に解消した（令和6年7月）
- 上記のとおり誘導しても従来の青い池駐車場入り口から左折し強引に右折入庫する車両がいたため、駐車場入口付近の町道のセンターラインに車線分離標を設置（観光ピーク時のみ）し右折入庫不可とした。その結果右折入庫待ち車両による道道の渋滞がほぼ解消した（令和6年8月）

整備前：トイレ待ちの列と、周辺道路における駐車場待ちの交通渋滞



整備後：新設したトイレ



青い池周辺の道路状況



成果及び今後に向けて

令和6年度事業の目標

A : トイレ待ち滞留の解消

B : トイレ待ちの滞留解消が周辺交通渋滞の軽減に寄与するか特定

事業の成果／目標の検証結果

A : トイレ滞留は解消

- ▶ トイレ待ち平均人数 : **80人から10人以下**に減少

B : 他の対策(車両誘導方法の変更)も併せて実施したことにより、周辺交通渋滞は緩和。

- ▶ 青い池周辺の道路のバス平均遅延時間
12分(最大遅延時間54分)から5分(同19分)に減少

令和6年度 of 取組みから見えてきた課題

- トイレ待ちの滞留解消により、新たなボトルネック(駐車場入出庫時の渋滞)も表出

1 駐車場入出庫をスムーズにする施策の検討

- トイレの滞留が解消され駐車場内の回転率が向上したことにより、入口における駐車券受け取り、出口における精算に時間を要する車両が多いことが判明した
- そのため、駐車場で出庫待ち渋滞と町道で入庫待ちの渋滞が発生
- 入出庫をスムーズにする新たな施策の検討が必要

2 対策を上回る観光客の増加

- トイレの混雑は減ったものの、観光客(特に訪日外国人旅行者)が急増していることから、駐車場に来た後の対策だけでは、周辺渋滞対策として不足することが分かった

令和7年以降に取り組むべきと考えること

- 青い池やその駐車場に来た後だけでなく、来る前の対策を講じていく

1 出入口の増設

- 普通自動車入口と出口各1ヶ所ずつ増設することを検討
- 出入スムーズ化に向けた既存の取組: 事前精算機の導入(出る前に清算可)、入出時のチケット受け取りの場所に、スタッフの配置

2a 周辺道路 渋滞情報の発信

- 既に発信している青い池駐車場・ビューポイントだけでなく、青い池周辺の道路の渋滞情報も併せて、デジタルサイネージや町ウェブサイトで発信することを検討

2b 非混雑エリアへの誘客

- 観光客の車両移動情報を分析し、観光地間をつなぐ二次交通の改善策や、青い池以外の非混雑エリアへの誘導動線を検討
- 2aの渋滞情報の発信と併せて、青い池に集中する観光客を分散させ、青い池並びに周辺道路の混雑緩和を目指す

5. 主な取組み（詳細）

課題

- 大型観光バスの路上駐車が引き起こす道路混雑により、近隣農家の作業に支障をきたしている

取組み

セブンスターの木駐車場改修（バス駐車可能台数増）

- 実施期間：令和6年8月～11月
- 実施主体：北海道美瑛町

事業内容

■ 駐車場改修

- 駐車場を改修し、大型バススペースを4台から10台に増やす

【背景】

- セブンスターの木は、大型観光バスの駐車スペースが少なく、同一時間帯にバスが集中することで、駐車場に入りきれないバスが発生。そのため、バスが6～7台周辺道路に路上駐車することで、頻繁に道路が混雑し、近隣農家への作業に支障をきたしている（農業機械が通れなくなる等）

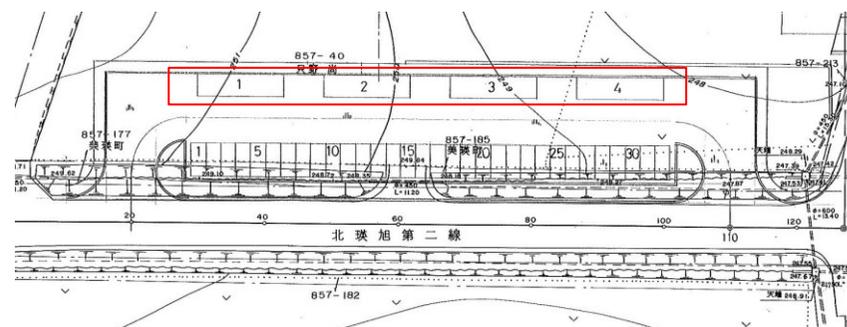
【目的】

- 駐車場を改修することで、限られたスペース内でバス駐車可能台数を増やし、観光大型バス集中による周辺道路の路上駐車や混雑の緩和を目指す

【その他取組み】

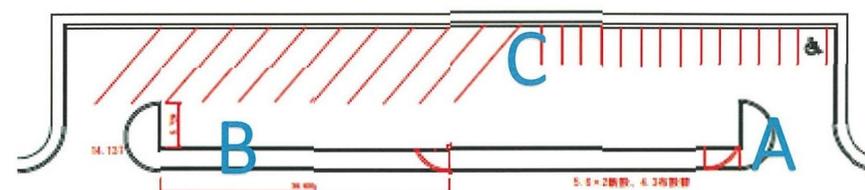
- 北海道警察と連携し、セブンスターの木周辺の町道を駐車禁止にする規制を実施。その結果、警察による定期巡回も実施され路上駐車はほぼなくなった（令和6年7～8月）
- 農繁期（6～8月）に観光協会において、セブンスターの木周辺道路に警備員を2名配置。その結果、交通整理により地域住民及び周辺農家の車両が安全に通行できた（令和6年6～8月）

実施前：大型バス4台駐車スペース（縦列）



◀ 大型バスの縦列駐車

実施後：大型バス10台駐車スペース（斜め駐車の線を作る）



A	舗装版撤去、路盤材転圧	2日	施工順番	2
B	舗装版撤去、路盤材転圧	3日	施工順番	1
C	路面標示	2日	施工順番	4
A+B	舗装敷設	2日	施工順番	3

令和6年度事業の目標

- A : 大型観光バスの路上駐車を解消する
- B : 近隣農家の生活環境を保全する

事業の成果／目標の検証結果

- A : 大型観光バスの路上駐車は解消
大型観光バスの路上駐車台数：6台から50台に減少
- B : 近隣農家の生活環境保全是、課題が残った
バスの路上駐車は無くなったが、バスから下車した観光客のマナー違反は依然として発生している

令和6年度の取組みから見えてきた課題

- 大型観光バス車両については規制の効果もあり改善がみられたが、観光客によるマナー違反行為は続いており、観光客を対象とした取組みが必要

1

観光客の農地立ち入りへの対応

- セブスターの木は農地に囲まれており、バスから降りた観光客が農地に立ち入ってしまう事象が引き続き起こった
- 車両だけでなく観光客を対象とした対策が必要

2

路上での写真撮影による滞留への対応

- 観光客が道路の真ん中で写真撮影を行い、約100人規模で滞留
- 周辺農家にとって生活道路であり、滞留が通行の妨げとなる。クラクションを鳴らしても無視され、対処が困難
- 道路での滞留がマナー違反であることの周知と、滞留解消のための具体的施策が必要

令和7年以降に取り組むべきと考えること

- マナー違反に対して、周知や啓発にとどまらず、現場でのアラート発信や違反行為を禁止事項として規則化するなど、直接的かつ強力な対策を検討していく

1

侵入検知カメラの設置

- 現在青い池・クリスマスツリーの木にあるカメラをセブスターの木付近にも設置
- 人が侵入したときに、音声4か国語（英・中・韓）で警告音声を流し、その場でのマナー違反行動に直接アプローチ

2

路上での撮影を禁止にする規制の導入

- 現行のデジタルサイネージ等でのマナー周知では不足
- 美瑛は再訪する外国人観光客が少なく、ルールを知らないことによる違反ではなく、個人のモラルによるものが多い可能性
- 路上での撮影行為を禁止するなど、より強力な手段を検討